

平成29年度 学校評価計画・総括表

五條市立西吉野小学校

教育目標		かしこく やさしく たくましく					総合評価	
運営方針		子ども達が一日の学校生活を終えたとき、「学校に来てよかった」「今日は楽しかった」と言える毎日であってほしい。困難なことを乗り越えてやりとげたときには、ことさら大きな充実感が待っている。自ら行動する力、困難なことにもひるまず打ち克つ力を培い、協働して楽しい学級・学校づくりに励み、みんなと喜びを分かち合える学校づくりをめざす。					A	
平成28年度の成果と課題		○授業改善が進み、主体的な学習ができつつある。 ◇算数科における思考力・表現力の育成が必要。 ◇進んであいさつできるようにする。また時間を大切に育てる。 ◇話し合う活動を通して、自治的・主体的な活動に取り組ませる。						
本年度の重点目標			具体的目標					
○主体的に活動する児童の育成。		○「算数科における思考力と表現力」の育成のために、指導法の創造と授業の充実を図る。						
○たくましい「体力」づくりの推進。		○いろいろな運動や遊びを奨励する。						
○地域と共にある学校づくりの推進。		○自分の仕事への責任感をもたせ、成就感や達成感を味わうことができるようにする。						
		○「地域から学ぶ」「地域を学ぶ」教育活動を進め、地域社会との連携を図る。						
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学習指導	思考力・表現力の育成	算数科における思考力・表現力向上のための授業改善を図るとともに、読書活動を通して、算数科の読解力を高める。	A	A	A	授業を見合い、意見交換することで授業改善に取り組んだ。各調査等の結果から児童の苦手な単元を抽出し、本校の課題を共有した。児童の学力差は依然として開いている。	・調査分析から明らかになった課題を授業作りや家庭学習への取り組みにもつなげていく。 ・児童の問題意識から議題を決め、自ら問題を発見し解決しようとする自治的・主体的な態度を育む。	学年に応じた指導の工夫があり、子供達は自分で考え生き生きと活動していた。一人一人の可能性を引き出す教育ができていた。読書活動においても、家庭の協力を得て、家読が定着してきていることが掲示物からもうかがえる。
	主体的な学び	児童による話し合い活動と実践を通して、自治的・主体的な態度を育てる。	A	A	A	委員会や学級会などで児童による話し合い活動を重視した。流れに沿った話し合いはできるようになってきたが、意見に説得力を持たせたり、検証したりすることができていない。		
人権教育	組織的な指導	児童一人一人の人権が尊重される学校づくり・学級づくりを学校全体で進める。	A	A	A	縦割り班活動を通して、よりよい人間関係作りが学べてる。一方で、自己肯定感の低い児童の姿が見られる場面がある。	・道徳や人権学習の時間の確保。 ・家庭とのつながりを重視した指導を行う。	QUを活かして、仲間づくりや学級づくりに取り組むんだり、家庭と連携して自尊感情を高める取り組みを進めてほしい。
生徒指導	基本的な生活習慣の定着	あいさつ・礼儀・時間励行などの態度を高め規範意識の向上に努める。	A	A	A	集団行動において時間遵守の意識が高まり、5分前行動が身に付きつつある。自ら気づいてあいさつをするという積極性に欠ける。	・教師間の共通理解を図る。道徳の時間や学級活動、日々の指導を通して、生活目標の意義や大切さを教えていく。些細なこと決めつけずに対応していくことで問題の早期発見に結びつける。学級間でお互いを尊重しあえる関係性を築けるような取り組みを行う。保護者との連携を密にし、信頼関係を築く。	学校訪問を通して、1年生から6年生まで、子ども達の生活態度が落ち着いていると感じた。また、多くの児童が「学校が楽しい」と答えていることから日頃の取組がうかがえる。今後も家庭と連携し、規範意識や基本的な生活習慣を身につけさせるなど、引き続ききめ細やかな対応を心がけてほしい。
		月ごとの生活目標の意識を高め、達成できるように取組を進める。	A	A	A	全校朝会で生活目標について話し、啓発することに努めた。各学級でも朝の会や帰りの会等で、目標が達成できるように取り組んだ結果、児童の意識も高まりつつある。		
	いじめ防止	いじめの根絶をめざし、いじめ防止、早期発見等の取組を行う。	A	A	A	日々の様子を細かく観察し、児童の話の聞いたり、職員で話し合ったりして、指導に当たっている。		
体力向上	体力の向上	運動習慣を身に付けさせる。負荷の大きい運動を取り入れ、体力向上を図る。	A	A	A	時間の確保には課題があるが、取り組んだことは成果として現れている。腹筋やボール投げの伸びが見られない。	・楽しんで運動できるようにゲーム性を持たせるなどの工夫をする。確保できた時間を有効に使う。	バス通学や山間部であることなど、地域的な課題も多いので、引き続き学校でも、体育の時間等でしっかりと体力の向上を図ってほしい。
地域連携	幼小中連携	園児・低学年児童の交流を進める。高学年児童と生徒の交流を深化させる。	A	B	B	合同運動会に向けて、話し合いの時間を持つことはできた。幼小中より共通理解を図れるように、次年度の年間計画を早期に作成し、計画的に進めていくようにした。	・年間計画に従って、幼小中の連携がより深まるように、話し合いを充実させていく。 ・幼小中12年間を見通した教育活動の展開を進めるために、年間計画に沿って、計画的に研修を深めていく。	学校行事等へのPTAの参加率が高い。地域の教育力は高く、大変協力的である。家庭・地域・学校が連携し、今後も子ども達を育てていくことが大切である。合同体育大会等、幼小中の連携ができているので、少人数だが活気を感じる。しかし、競技数については、来年度は検討してほしい。
		中学校との合同授業や、T Tによる授業を取り入れる。	B	B	B	小中それぞれの校内研修に積極的に参加するなど、一定の連携をすることはできている。しかし、体育や外国語など、教科の連携は不十分であると思う。	・教科学習でも地域の人材や教材を活かすために、積極的な活用を考えていく。	
	地域活用	地域の人材や教材を積極的に活用するとともに、地域の人々とのふれあいを図る。	B	B	B	ふるさと学習を通して、地域に触れる機会を持つことができた。ボランティアの方々による読み聞かせや学習支援のおかげで子ども達のやる気を高めている。		

A:十分である B:ほぼ十分である C:あまり十分でない D:改善を要する